



第七卷 第五號

發行所 館和 公民館 村公所 方城 編輯 荒 印刷 八幡市折尾町国道筋

村政について

三菱方城礦業所 勤労課長 尾崎努

編集者から村行政の批判について 一文を要請されたが、これはなかなか当り触りのある難題である。もと

批判には責任が伴うし、批判するには実態の把握が前提となる。平素の不勉強で村行政の実態を余り知らない私は、従って批判する根本的資格に欠けていることになる。恥しいことだが、本紙前号で高津助役の概説された村議会の傍聴も、殆どしたことがない者の一人である。とい

一、文化村と「うらやま」

文化方城村の名前は天下に喧伝されてゐる。処で文化とは何ぞや、と

欠ぐことなき様祈念する次第である 緑は平和を意味する。醜い争のない 平和方城村、こちたき再軍備反対論

二、自治と「うらやま」

自治とは自ら修めることである。 治國平天下の道は修身齊家に発する 政治の本質は自治である。自治には

三、愛郷心について

公民館活動に於いて、特に力を注いで欲しい点は愛郷の念の養成である。アメリカ占領行政による日本人

四、教育について

本年度歳出総額五千四百円中教育費は一千九百五十円、三六%である。勿論伊方小学校改善費が一千

の信念で燃えた朴訥な風格を懐しむのは私一人ではあるまい。見東てぬ 夢を子に託している愚な父兄として

特に赤痢豫防に就いて

診療所 渡辺 医師

雨期から夏期にかけては消化器系の 病気が多く、伝染性の赤痢、疫病等

赤痢は戦後一時少くなって居たのであるが、食糧事情の好転と共に其の数を増し毎年多数の患者を発生して居る。

方城村に於ても毎年多数の赤痢患者の発生を見居り、今年も二月頃より 次々に赤痢が発生して居り、現在尚